



会報



DISTRICT 353
CLUB BULLETIN

創立 S34.6.9 承認 S34.6.27

鶴岡ロータリー

THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

秋のきく

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや
例会日 毎週火曜日 PM 12:30 - 1:30
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内
電話 0235 (2) 5775

会長 鈴木善作
幹事 高橋辰美

Renew the Spirit of Rotary

ロータリーの精神を振るい起こせ

第 771 号 1974. 9. 17 (火) (晴) No.12

会報はご家族みんなで読みましょう

◆出席報告

本日の出席

会員数	68名
出席数	52名
出席率	76.47%

前回の出席

前回出席率	77.94%
修正出席数	64名
確定出席率	94.12%

欠席者

阿宗君、風間君、半田君、早坂(徳)君、山本(正)君、五十嵐(伊)君、進藤君、田中君、嶺岸君、菅君、小野寺君、中江君、齋藤(信)君、佐藤(忠)君、富樫君、鷺田君

メークアップ

五十嵐(伊)君—水戸R・C
藪田君—新潟R・C
阿部(襄)君、山本(正)君、高橋(良)君、三井(徹)君、三浦君、齋藤(榮)君、上野君—温海R・C
阿部(公)君、山本(隆)君—鶴岡西R・C

◆ビジター

吉川喜一郎君、菅原年雄君、佐藤拓君、阿部正男君—鶴岡西R・C

◆点 鐘 12:30 鈴木会長

◆ロータリーソング

(それでごそロータリー)

◆ビジター紹介 S・A・A

◆お客様紹介及び歓迎のことは

◆会長報告 特別なし

◆幹事報告

- (イ) 年次大会へ交換学生、インターアクトロータリーアクト
(代表) 米山記念奨学生参加懇請
- (ロ) ポールハリス・フェロー受賞者とR・I会長代理夫妻を囲む昼食会開催
- (ハ) ロータリー財団奨学金の件
(山大 菊地敏君) 本部決定通知

◆ゲストスピーチ 佐藤 恒氏

金沢工業大学海外技術協力研究会
インド、ネパール昨年5月～今年2月の体験

(ニュー YORKの新聞記事)

育樹専門家協会がキルマーの 生誕地に榿を植えた

ニューフランスズィック発4月29日 (UPI)

例の詩“木”を書いた詩人ジョイスキルマーの、今のところ戸、窓等板張になっている生家の前庭に、この週末に5フィートの赤榿の若木が植えられた。

ニュージャージー育樹専門家協会主催のこの式に約100人が出席した。同協会はこの3階建木造家屋が修理された後、これをその本部にすることを望んでいる。

“此の木程に美しい詩を見ることはないだろう”という句で始まる詩を書いたキルマーは第一次世界大戦の時情報活動中に1918年7月30日にフランスで暗殺された。

同詩人は現在ジョイスキルマー通り17番となっているその建物で、1886年12月6日に生れた。

国際理解週間に当って、姉妹都市 New Bwhs urck 市についてのニュースを1つ申し上げます。

それはこの R・C のバナーにも図示されている有名な詩人 goyce Kilmer と彼の最も有名な詩“木”を生んだ榿の木 Oak に就いての話です。この木は7〜8年前に切り倒されたのです。

私が5年前に同市を訪問した時に、その木の材料で造った“榿と台”を同市の市長パトリシャシーバン夫人から鶴岡市長への贈物として持参したことを憶い出します。

◆スマイル (小松君)

新徳光一郎君

新徳建築設計事務所改築工事立派に竣功しまして御目出度う御座居ます。

主体工事の佐藤衛君より多額のスマイルを頂戴致しました。

齋藤栄作君 9月6日3尺の鱈
魚拓亀茶屋にあり

中野重次郎君

第一地所株主GOLF大会で優勝

◆ロータリー情報委員会

張紹淵君、山本隆男君、津田晋介君

主 題

◎出席の意味は

◎世界理解週間とは

◎出席の意味は

①出席は、ロータリーの「とりで」であります。②出席は、あなたがどの程度ロータリー精神に徹しているかを知る物差しであります。③出席は、あなたの利他的奉仕の分野を決定します。④出席は、所属クラブの活動に対するあなたの関心度を明示します。⑤出席は、新しい友をつくと同時に、古い友人を失いたくないという、あなたの願望を実証します。⑥出席は、あなたにとって、ロータリーが、どのような意味を持つかということを確認に語るものであります。

◎世界理解週間とは

理事会は、毎年9月15日を含む週を「世界理解週間」、として設定しました。この特別な週にクラブは、世界平和に重要な理解と親善とを、特に強調した、クラブのプログラムその他の活動を提供するように、すすめています。

この週間で、どうしても思い出して欲しいことは、その一週間の日程であります。そのよい模範例を挙げてみますと、①日曜日には地域社会の宗教団体と世界の国々の間のよりよき理解にちなんで礼拝すること。②月曜日には、市長は、この週間に関する布告を新聞、ラジオ、テレビの発表をお願いして、③火曜日には、海外のロータリークラブの書籍、雑誌の公開展示会をします。④水曜日には、ロータリークラブの和楽会(やわらかさ楽しむ会)に内外の世界理解の功労者達の功績を世間に知らせ、表彰する。⑤木曜日には、ラジオ、テレビで他国クラブからのスライドを公表をします。⑥金曜日には、彼等の身になって大きい会合を催し、重要な国際問題の討論にあたっては、ロータリーの主旨にピッタリ合うようなものを選びます。⑦土曜日には、国際舞踏会、又は私宅を開放してパーティを最高潮にもって、友情を高めるのであります。が、必ずしも一週間ずーっとプログラムに強いるものでもないで、その一部を強調して参加することも意味のあることを忘れないようにしましょう。

そして、①海外からの来訪者達をお迎えするには、どうすればよいか。(No.708)②彼らに家庭の気分をあたえるには、(No.743)③彼らの身になって、(No.709)考えることも必要であります。

❖ 国際ロータリー第353区山形県庄内分区

I.C.G.F 全体会議テーマ

1974. 9. 8

われわれは今後20年間に、どのように取り組むべきか、またわれわれの子孫に何を残すべきか。

1. インフレーション下のロータリー活動
リーダー 早坂源四郎
2. 資源と食糧
アドバイザー 石黒慶之助
3. 環境保全——家庭・工場
アドバイザー 荒井 清
4. 青少年問題
副リーダー 高坂知甫

資源と食糧

アドバイザー分区代理
石 黒 慶 之 助

今から20年後といえ私共は果して元気で生存しているかどうか判りませんが、世界の人口はどの位増えているか、食糧は大丈夫なのか、また資源はどうなっているかを考えねばなりません。現在私共は科学の進歩により過去の世代では経験しない物質文明の恩恵を甘受しています。将来は更に便利で豊かな素晴らしいパラ色の世界を期待しております。しかしながらそのような甘い夢は果して実現しましょうか。

結論から先きに申し上げれば、資源と食糧に関する限り灰色の未来、先き行きが非常に不安であると申されるようです。

資源と食糧の前に、先ず世界の人口問題に触れねばなりません。去る8月19日よりルー

マニアのブカレストで開かれた国連の世界人口会議の発表では、8月1日現在で世界の人口は39億5,400万人であり 毎日20万人宛増え1万人宛死亡しており、概算 年2.1%の増加をたどっているそうです。人口の鼠算的な増加により食糧は極度に逼迫し共喰いの危険があるので産児制限も提案されましたが、開発途上国の強い反対にあっているようで。

イギリスの人口問題審議会では「今世紀内に1夫婦平均子供2人という家族構成になったとしても21世紀まで世界人口は増えつづけ82億となり、100年後には現在の4倍、155億の人口となって安定するだろう」と予測しています。

私共人類は数万年かかって30億になったのはつい最近であります。これが今後20~30年間で2倍になり100年後には4倍になるとすれば正に爆発的人口増加と言わねばなりません。

ではこれを賄う米・小麦などの主食、魚・肉などの蛋白源或は野菜などの食糧はどうなるでしょう。地球は有限であります。更に食糧の増産を進め、急増する人口を賄って行けましょうか。現在、餓死者や栄養失調を原因とする死亡者は年間360万人、発展途上国の人口の50~60%が慢性的な栄養不良に陥っています。現在既に食糧は絶対量不足の時代に突入し始めています。

そこで、主食だけについて考えてみるとして、地球の食糧生産能力はどれ位あるのか。全地球上の耕地可能な面積は32億ヘクタール——これは地球の陸地面積は145億ヘクタール、その約22%に相当——このうち半分の16億ヘクタールが既耕地であります。理論上はまだ開拓の余地はあります。しかしその未耕地は肥沃な農地ではなく、整地・灌漑・施肥に莫大な費用がかかります。直に農地転換に難しいわけです。FAO(国連食糧農業機関)では1980年の食糧生産にはその時の人口と比べ3億230万人分が不足となり、今後20年を待たずに「飢餓の時代」に突入するとされています。

わが国では今から静止人口を予測し、今後50年間で1億4,000万人とし、ここで静止すると目標しているようです。米と野菜しか自給出来ない日本としては世界の食糧危機に重大な関心を持たねばなりません。

今仮りに、米国のご都合により食糧輸入が停止したとすれば、日本は小麦・大豆・肉類・飼料などの需要は絶望的となり国民の $\frac{1}{4}$ は飢餓になるといわれています。海洋資源についても、去る8月に開催された海洋法会議において領海12海里、経済水域200海里の取り定めによりわが国の漁獲高は減少すると見ねばなりません。更に近海漁は海の汚染により果して何時まで食用に供されるか不安がつのるばかりであります。

以上人類の自滅を恐れるような警報を沢山申し上げましたが、そんな取り越し苦労は無い、人間は知恵があり大自然への順応性の高い動物であるからまだまだ大丈夫である。と述べる説もあります。人類の歴史は飢餓との闘いで成長発展して来たではないか。英知と勇気を以てすれば人口も200億（現在の5倍）まで生存出来るという楽観論もあります。

次に資源問題について考えて見ましょう。まず資源の余命、即ち現在使用している資源はもう何年位使えるかについての調査であります。ローマクラブ発表の「成長の限界」をまとめたメドウス教授等の計算によれば、現在のまま使用すると仮定しても、その耐用年数は石油20年、天然ガス22年、石炭111年、金9年、銀13年、水銀13年、銅21年、鉛21年アルミニウム31年と見込まれます。更に今後新しい鉱床の発見で埋蔵量が5倍になると期待しても、石油50年、天然ガス49年、石炭150年、金29年、銀42年、水銀41年、銅43年鉛64年、アルミニウム55年で地球上から消え去ることになるそうです。

我が国の石油の需要面だけをとり上げて見れば、日本では年間2億2,000万 kl の石油を消費し1人当たりドラム缶20本以上を消費していることとなります。これが工業生産量の伸びを計算すれば、昭和60年度にはおそらく現在の3倍量7億 kl まで消費するようになり、中東の現在年間生産量に近い数量となります。

その頃になると生産も幾何級数的に増加し大自然の汚染と廃棄物の充満で環境破壊はどうなるだろうか。食糧物資の欠乏も加わり心の乱れ、精神の荒廃につながり人間性の喪失とならないだろうか。

企業は利潤のためにのみ生産増強をつづけ個人は贅沢と消費を重ね、生めよ増やせよと人口増加をつづけ、無制限な慾望をほしいままにすれば、人類は早晚自らの手で自らの首をしめる生存の限界に達すると思います。

また私共は公害の発生のみを恐れ、豊かさや便利さをもたらす科学の進歩を無視するような態度もまた人類を危機におとすことになると考えます。科学の進歩と共に公害の無い世界を夢見たいものです。

われわれロータリアンはこの資源と食糧を将来どのように対処すべきかを考え、人類危機を前にしてわれわれの活動はこのままでよいのかを考えていただきたいと思います。

そして如何にして子孫に美しい豊かな自然と平和で健康な世界を残すか。更に子孫が国土に魅力を持ち、自分の仕事に生き甲斐をおぼえ、のびのびと能力を発揮出来るような環境を残すにはどうすれば良いかを考えねばならないと思います。

スピーチ等には、要旨で結構ですので、原稿を会報委員会にお渡し下さいます様重ねてお願い致します。御協力下さい。